



# 第63期 HIRATA REPORT

平成25年4月1日～平成26年3月31日



# Plus Oneの 新しい種をまく

代表取締役社長 平田 雄一郎



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第63期(平成25年4月1日～平成26年3月31日)の事業概況を以下のとおり、ご報告させていただきます。

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経済情勢は、米国では、財政面での懸念事項があるものの、住宅市場の持ち直しや雇用環境、個人消費の改善などにより緩やかな回復が継続しており、欧州では、債務危機への懸念が後退し、景気の下げ止まりの兆しが見え始めましたが、回復力は弱く、依然として低調でありました。また、中国など新興国では、景気の減速感があるものの、緩やかな持ち直しがみられる中で推移しました。一方、国内経済は、政府の経済・金融政策を背景に円安および株高の進行、加えて消費増税前の駆け込み需要に支えられ、景況感は着実に上向いておりますが、設備投資においては慎重姿勢が続いており、本格的な回復には至っていない状況です。

このような経営環境のもと、当社グループにおきましては、自動車関連生産設備事業における積極的なエンジニアリング活動により、確実に受注に結びつけるための対応や、半導体関連生産設備事業では、既存のお客様への密着した営業活動の展開など、営業・受注活動の強化に注力してまいりました。また、事業環境および負荷状況に応じ、内部リソースを最大活用するための最適な人員配置を行うことで生産効率の向上を図ってまいりました。

この結果、当期間の連結売上高は471億29百万円(前期比23.5%増)となり、営業利益は17億23百万円(前期比282.4%増)、経常利益は16億58百万円(前期比320.3%増)、当期純利益は8億40百万円(前期比195.1%増)となりました。なお、当期の配当につきましては、1株あたり12.5円の配当を実施いたします。

## 通期業績の見込みについて

平成27年3月期の見通しにつきましては、ウクライナ情勢や新興国における景気の減速感があるものの、米国を中心とした先進国経済は堅調に推移しており、国内経済におきましても、消費税率引き上げに伴う反動を一時的に受けながらも、政府の経済・金融政策により、総じて緩やかな回復基調が継続するものと見込まれております。しかしながら、企業の設備投資に対する姿勢は慎重であり、また、競合企業とのコスト競争など厳しい事業環境が予想されます。

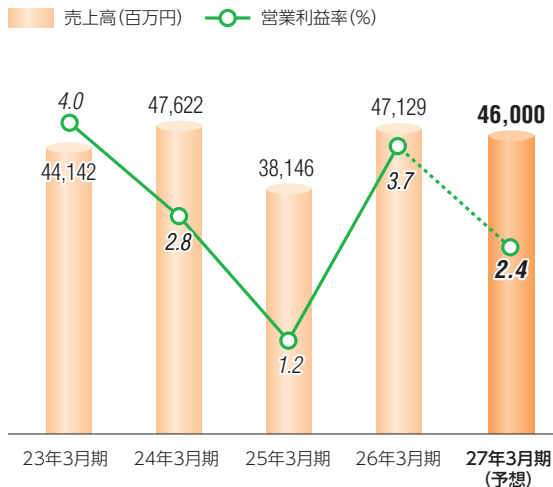
このような事業環境のもと、当社グループにおきましては中期経営計画「Plus One 61」(平成24年度～平成26年度)の最終年度として、事業拡大が期待できる市場や分野への積極的な展開に加え、コスト競争力の向上を図ってまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### ■ 平成26年3月期 累計実績と通期業績予想(連結)

	平成26年3月期	平成27年3月期予想
	実績	通期
売上高	471億円	460億円
営業利益	17.2億円	11億円
経常利益	16.5億円	10億円
当期純利益	8.4億円	6.5億円
1株あたり当期純利益	80.86円	62.50円
1株あたり配当金	12.5円	12.5円

### ■ 連結売上高・営業利益率推移



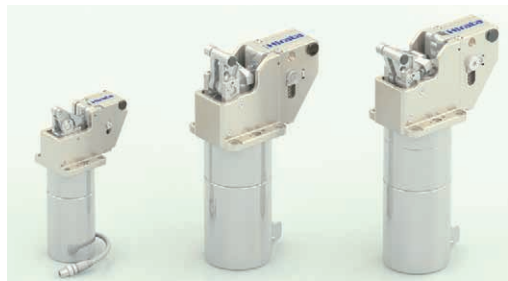
## さまざまな分野で活用できる 「ECO(エコ)電動ストッパー」を開発

### より良くより安い生産設備の提供を目指す

当社は、さまざまな分野の生産設備を手掛けた実績と経験から、コンベヤシステムに多数使われているストッパーに関して、これまで主流だったエアシリンダー式ではなく、電動式で省エネタイプの電動ストッパーを開発いたしました。既存のお客様に提案し、実績を上げている本製品を紹介いたします。

### 環境にやさしく低コスト

ストッパーとは、生産ラインのコンベヤ上を流れる作業の対象物(ワーク)を載せてあるパレットを、組立作業などの間、一時的に定位位置に停止させておくための装置です。次工程の準備ができるまで停止させておくという使用方法もあります。ストッパーは、1~2メートルおきに設置されているため、自動車のエンジン組立ラインなどの大型設備では数百個使用されます。この電動ストッパーは、従来のエアシリンダー式では必要だった電磁弁、エア配管、エアホースなどの付属品が不要です。加えて、他社の主な電動ストッパーでは必要なコントローラーも不要で、直流24ボルトの電源だけで動かせます。本製品は電力量やCO<sub>2</sub>排出量を減少した環境配慮型であり、また、お客様の初期投資やランニングコストが低減でき、コストパフォーマンスにも優れています。



従来の規格品サイズに合わせた各種タイプを用意



電動ストッパーのライン使用例

### 主な特長

#### 省エネ

通常待機時は消費電力なし。コンプレッサーなどのエア機器一切不要。CO<sub>2</sub>排出も低減

#### 低コスト

直流24ボルト電源だけで駆動。初期費用・ランニングコスト低減。  
電力コストは年間90%以上の削減(※1kWh=13円で計算)

#### 互換性があり 置き換え簡単

国内大手エア機器メーカー品と同じ規格。取り替え簡単

#### 安全性

可動範囲が少なく、指の挟みこみがない

本製品は、ストッパーを多数使う生産設備において大きなメリットを提供し、お客様の競争力アップに貢献しております。また、今後、当社は本製品に続く製品の開発なども進め、より省エネで生産性の高い製品を提案し、お客様のさらなるご期待にお応えしてまいります。

## 直交6軸ロボット、スカラロボット、単軸コントローラー

### お客様の生産効率を向上させるHirataのロボット技術

当社のロボット技術は、自動車、半導体、家電や搬送などの各生産設備に組み込まれ、システムの一部として活躍しています。当社が開発した、汎用性が高くさまざまな分野で使われている直交6軸ロボット、スカラロボット、単軸コントローラーについて、応用例を挙げてご紹介いたします。これらの製品は、2013年11月に東京ビッグサイトで開催された「2013国際ロボット展」にも出展いたしました。当社は、今後もお客様のご要望に合わせた最適なシステムの提案を積極的に進めてまいります。

### 加工機にも使え、大型化可能な直交6軸ロボット

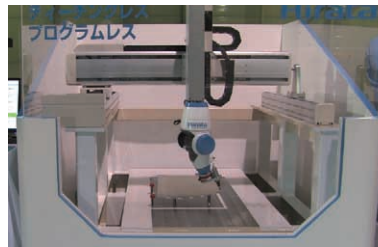
ビジョンシステム※1により、加工対象となる材料の形状を自動認識し、ティーチングレス※2で加工作業ができる6軸ロボットです。直交3軸ロボットに先端3軸ユニットをつけた6つの自由度※3があり、曲面などの複雑な形状にも対応できます。高剛性で、高精度、可動範囲が広く、応用例として、バラバラに積まれた部品の取り出しや斜め方向への部品組付、大型(全長30m、幅5m)の船底の面取り加工やバリ取り※4などがあります。

※1 ビジョンシステム:ロボット上部にあるカメラで加工物の形や位置を読み取るシステム。

※2 ティーチングレス:ロボットに動作手順を教える作業(ティーチング)が不要なこと。

※3 自由度:動かせる方向のこと。人間の手足は上下、左右、ひねりの3つの方向へ動かせるため3自由度となる。

※4 バリ取り:材料を切断・切削する際に、材料の端にできる出っ張り(バリ)を取り除くこと。高精度の部材をつくるために必要な作業。



カメラで加工対象を読み取り、ティーチングレスで加工

### 家電・自動車部品の組立などに使われるスカラ(水平多関節)ロボット

業界トップクラスの高速搬送を実現したスカラロボットです。最高動作速度は標準サイクルタイム※50.28秒。複数のロボットを協調して動かすことができます。家電および自動車部品の組立、据付、締付、移載などの幅広い場面で活躍できます。



協調動作をしながら、ピー玉移載のデモンストレーションをする2台のロボット

※5 標準サイクルタイム:上下移動25mm、水平移動300mmの往復動作時間。

### 幅広く使用できる単軸コントローラー

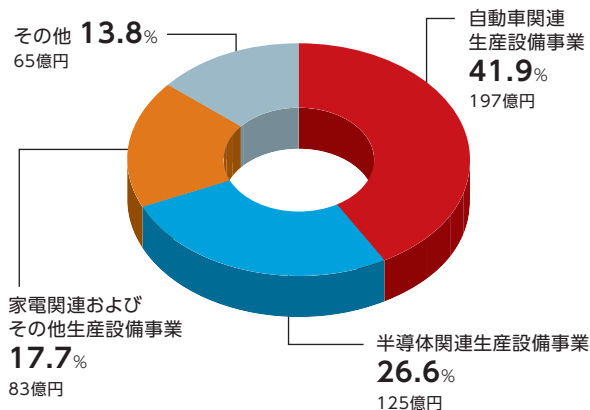
単軸スライダや電動シリンダーなどの制御を行うコントローラーです。小型で簡単操作、低価格で提供できます。3台を接続して、直交ロボット(XYZ)の各軸を連動して動かす補間動作が可能です。



## 事業部門別概況

### 当期売上高内訳

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)



売上高

**471** 億円

受注高

**433** 億円

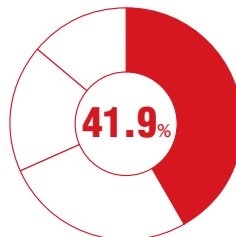
受注残高

**162** 億円

当期間の売上高の事業部門別構成比は、自動車関連が197億円で全体の約42%、続く半導体関連が125億円で約27%、家電関連およびその他が83億円で約18%となっております。それぞれの事業部門において増収となっております。

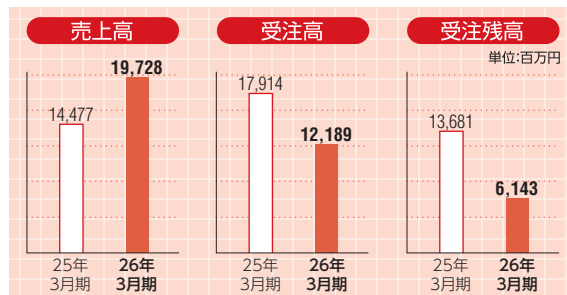
## 自動車関連生産設備事業

エンジン、トランスミッションなどの自動車の駆動系主要部品をはじめ、制御用電子機器、車載用電子部品などの組立設備の製造・販売



売上高 **197** 億円

対前期増減率 **+36.3%**



### 第63期実績

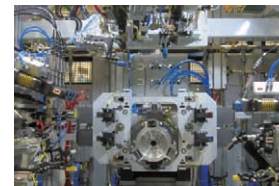
自動車関連生産設備は、北米および中国メーカー向けのエンジンやトランスミッション組立ラインなどの大型案件を中心に売上が堅調に推移しました結果、売上高は前期比36.3%増の197億28百万円となりました。

受注高は、大型案件の受注が集中した前期と比較しますと、前期比32.0%減の121億89百万円となりました。

今期の売上高は、通期で160億円を予想しております。



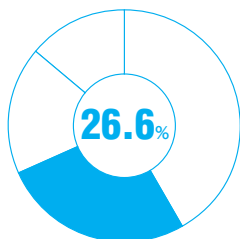
エンジン組立ライン



エンジンテスト機

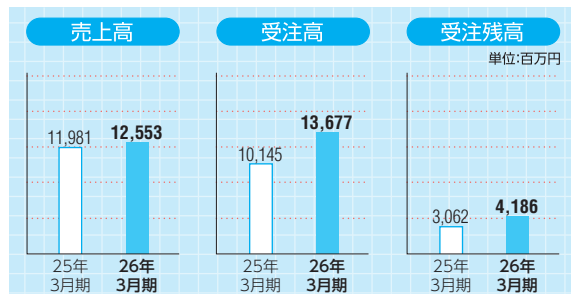
## 半導体関連生産設備事業

ロードポート、ウェーハ搬送ロボットなどの半導体関連生産設備、レジスト塗布装置などのFPD関連生産設備の製造・販売



売上高 **125** 億円

対前期  
増減率 **+4.8%**



### 第63期 実績

半導体関連生産設備は、製造受託案件、半導体製造装置関連およびFPDパネル用ヘッドコーターなどを堅調に売上げました結果、売上高は前期比4.8%増の125億53百万円となりました。

受注高は、国内外の半導体装置メーカー、デバイスメーカー向けの装置などを中心に堅調に増加し、前期比34.8%増の136億77百万円となりました。

今期の売上高は、通期で115億円を予想しております。



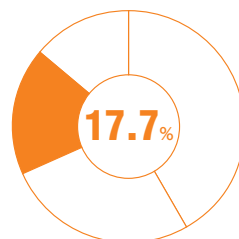
450mm EFEM/ソーター



ウェーハ真空搬送ロボット

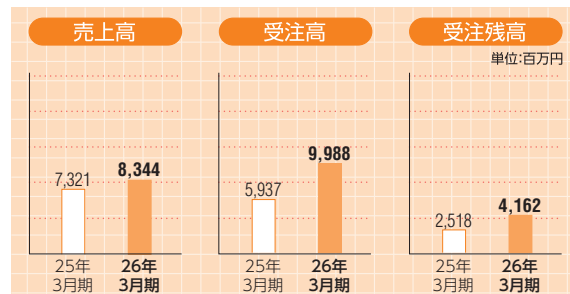
## 家電関連およびその他生産設備事業

家電関連分野では、薄型テレビ、冷蔵庫などの自動組立設備、その他生産設備分野では、タイヤ生産設備、自動倉庫システムなどを製造・販売



売上高 **83** 億円

対前期  
増減率 **+14.0%**



### 第63期 実績

家電関連およびその他生産設備は、家電関連、タイヤ関連に加えて、住宅関連などを売上げました結果、売上高は前期比14.0%増の83億44百万円となりました。

受注高は、タイヤメーカー、掃除機メーカー、住宅関連メーカーなど幅広い業種からの受注により、前期比68.2%増の99億88百万円となりました。

今期の売上高は、掃除機関連やタイヤ関連などを中心に堅調となる予想であり、120億円を見込んでおります。



タイヤ材料用ゴム搬送設備



モバイル機器組立装置 ACS-MD

## 連結財務諸表(要約)

■連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (25.3.31)	当連結会計年度 (26.3.31)
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>	33,622	38,408
現金及び預金 …………… 1	5,351	8,569
受取手形及び売掛金 … 2	21,462	22,181
たな卸資産	4,182	5,233
繰延税金資産	1,496	1,628
その他	1,132	806
貸倒引当金	△ 2	△ 10
<b>固定資産</b>	20,010	19,943
有形固定資産	15,892	15,817
建物及び構築物(純額)	4,381	4,254
土地	9,731	9,768
その他	1,778	1,794
無形固定資産	281	412
投資その他の資産	3,836	3,713
投資有価証券	2,313	2,150
破産更正債権等	44	41
繰延税金資産	1,125	1,011
その他	386	638
貸倒引当金	△ 33	△ 128
<b>資産合計</b>	<b>53,632</b>	<b>58,352</b>

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (25.3.31)	当連結会計年度 (26.3.31)
<b>【負債の部】</b>		
<b>流動負債</b>	23,300	26,952
支払手形及び買掛金 … 3	7,341	8,236
短期借入金	6,403	9,432
1年内返済予定の長期借入金 } 4	5,476	5,030
賞与引当金	101	13
その他	3,976	4,239
<b>固定負債</b>	11,940	12,204
長期借入金 …………… 4	7,360	7,777
退職給付引当金	1,021	—
退職給付にかかる負債	—	1,380
その他	3,558	3,046
<b>負債合計</b>	<b>35,240</b>	<b>39,157</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	14,056	14,681
資本金	2,633	2,633
資本剰余金	2,322	2,322
利益剰余金	9,343	10,052
自己株式	△ 243	△ 327
その他の包括利益累計額	4,157	4,305
少数株主持分	178	207
<b>純資産合計</b>	<b>18,392</b>	<b>19,194</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>53,632</b>	<b>58,352</b>

### ポイント

#### 1 現金及び預金

現金及び預金は、北米向け大型案件などの回収や、借入金を増加させ手許資金を厚くした結果、前期比32億17百万円の増加となりました。

#### 2 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は、売上高の増加により、前期比7億19百万円の増加となりました。

#### 3 支払手形及び買掛金

生産高が増加したことなどにより、前期比8億95百万円の増加となりました。

#### 4 有利子負債

運転資金需要の増加に伴い、長短借入金を合わせ、前期比29億99百万円の増加となりました。



## ■連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 24.4.1 至 25.3.31)	(自 25.4.1 至 26.3.31)
売上高	38,146	47,129
売上原価	32,418	39,512
売上総利益	5,727	7,616
販売費及び一般管理費	5,276	5,892
営業利益	450	1,723
営業外収益	152	167
営業外費用	208	232
経常利益	394	1,658
特別利益	129	186
特別損失	23	204
税金等調整前当期純利益	501	1,640
法人税等	256	794
少数株主利益	△ 39	5
当期純利益	284	840

## ■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 24.4.1 至 25.3.31)	(自 25.4.1 至 26.3.31)
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 643	959
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,018	△ 480
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 679	2,387
現金及び現金同等物に 係る換算差額	144	330
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 2,197	3,196
現金及び現金同等物の 期首残高	7,549	5,351
現金及び現金同等物の 期末残高	5,351	8,548

## ポイント

### 5 売上高

自動車関連において北米および中国メーカー向けの大型案件を中心に売上が堅調に推移した結果、前期比23.5%増の471億29百万円となりました。

### 6 営業利益

売上高の増加に加え、原価率の低減などにより、前期比282.4%増の17億23百万円となりました。

### 7 経常利益

売上高の増加および営業利益の増加などにより、前期比320.3%増の16億58百万円となりました。

### 8 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金は、税金等調整前当期純利益16億40百万円に対して、減価償却費で9億89百万円増加、たな卸資産が6億89百万円増加したことなどにより、9億59百万円の増加となりました。

### 9 投資活動によるキャッシュ・フロー

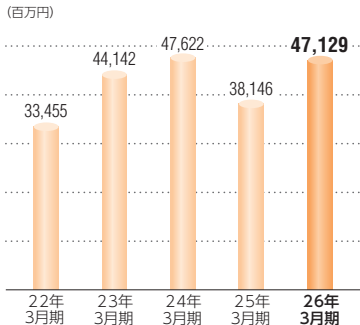
投資活動による資金は、有形固定資産の取得4億3百万円などにより、4億80百万円の減少となりました。

### 10 財務活動によるキャッシュ・フロー

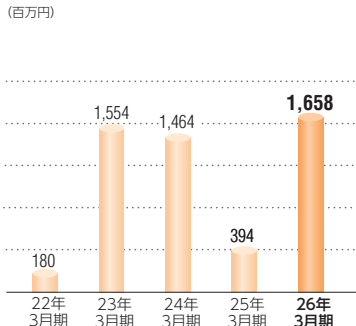
財務活動による資金は、短期借入金の増加28億33百万円、長期借入れによる収入57億円、長期借入金の返済による支出57億29百万円などにより、23億87百万円の増加となりました。

# 財務ハイライト

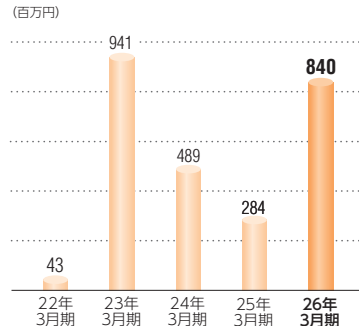
## 売上高



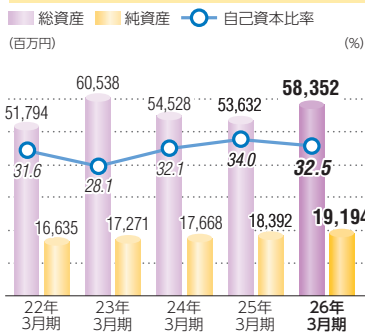
## 経常利益



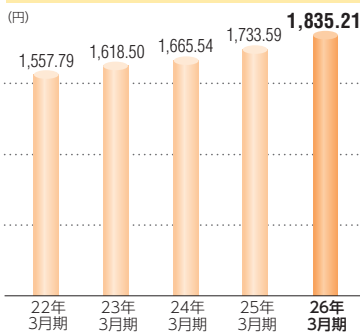
## 当期純利益



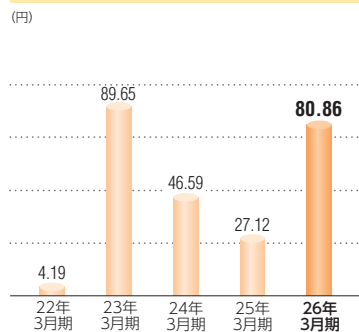
## 総資産／純資産



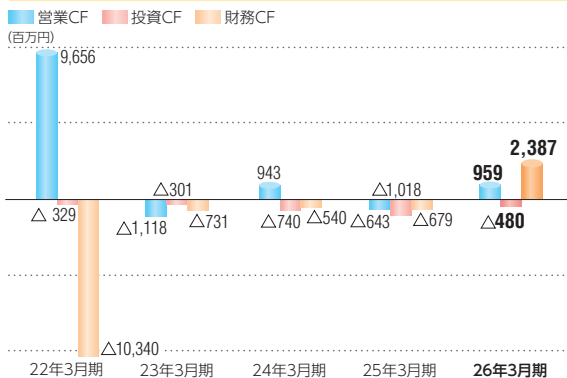
## 1株あたり純資産額



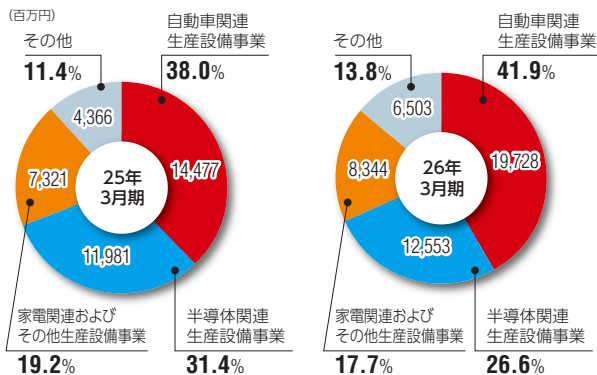
## 1株あたり当期純利益



## キャッシュ・フロー



## 事業別売上高および比率



## 会社概要 (平成26年6月26日現在)

**会社名** 平田機工株式会社  
**会社設立** 1951年12月29日  
**資本金** 2,633百万円  
**従業員数** 1,940名(連結 平成26年3月31日現在)  
**業務内容** 各種生産システム、産業用ロボットおよび  
物流関連機器等の製造ならびに販売  
**本社所在地** 東京都品川区戸越3丁目9番20号

**役員** 代表取締役社長 平田雄一郎 常勤監査役 小川 克眞  
 代表取締役副社長執行役員 橘 勝義 監査役 村田 邦夫  
 取締役執行役員 田中 敏治 監査役 山田 昭  
 取締役執行役員 安高純一郎 監査役 鳥巢 宣明  
 取締役 坂本 広徳  
 取締役執行役員 藤原 五男  
 取締役執行役員 平賀 靖英  
 取締役執行役員 本郷 仁基  
 取締役執行役員 黒田 健治  
 取締役執行役員 市原 雄一  
 社外取締役 雀部 博之

## 株式の状況 (平成26年3月31日現在)

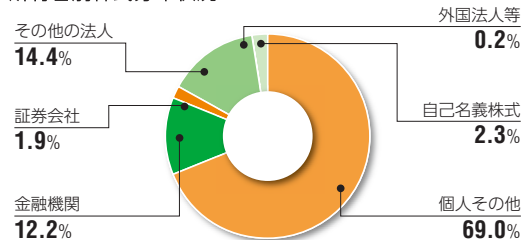
- 発行可能株式総数 37,000,000 株
- 発行済株式総数 10,756,090 株
- 株主数 2,460 名

### ■大株主の状況

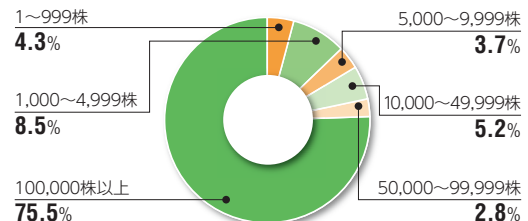
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
平田機工社員持株会	844,910	8.04
平田 雄一郎	582,800	5.55
SMC株式会社	500,000	4.76
平田 宏之	464,972	4.43
株式会社肥後銀行	456,000	4.34
平田 得好	402,462	3.83
平田 満	385,629	3.67
平田 正治郎	321,500	3.06
平田 滋夫	306,044	2.91
日本梱包運輸倉庫株式会社	272,400	2.59

上記のほか、当社が保有している自己株式が249,553株あります。持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### ●所有者別株式分布状況



### ●所有株数別株式分布状況



## 株主メモおよびその他のIR情報

### 株主メモ (株主のご案内)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
株主確定基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 ※期末配当のみとさせていただきます。
定時株主総会	毎年6月開催
単元株式数	100株
証券コード	6258
上場金融商品取引所	東京証券取引所 JASDAQ市場
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	<郵便物送付先> 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 <電話照会先> 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	当社のホームページに掲載します。ただし、事故 その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経 済新聞に掲載して公告します。

#### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

### その他のIR情報

当社ホームページの個人投資家向けのページには、当社の事業内容、業績の推移、あゆみなどさまざまな情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

#### ■ 平田機工株式会社ホームページ



<http://www.hirata.co.jp/>

#### ■ IR情報



<http://www.hirata.co.jp/ir/>

- IR情報に関するお問い合わせ先  
平田機工株式会社 管理本部 総務部 IR・広報室

TEL 096-272-5558

FAX 096-272-3618

E-mail [hirata\\_info@hirata.co.jp](mailto:hirata_info@hirata.co.jp)

## 平田機工株式会社

### 本社

〒142-0041 東京都品川区戸越3丁目9-20  
TEL.03-3786-1226 FAX.03-3786-1264

### 熊本本部

〒861-0198 熊本県熊本市北区植木町一木111  
TEL.096-272-0555 FAX.096-272-7901